

った。

以上、内頸動脈閉塞症において、閉塞側、非閉塞側の局所脳血流の分布を観察し、総頸動脈圧迫テストを行うことにより外頸動脈経由の側副血流の発達度を定量的に把握することができた。

26. r-CBF functional image により評価した STA-MCA anastomosis

岩田 吉一

(阪大・脳外)

早川 徹

(府立成人病センター・脳外)

木村 和文

(阪大・中放)

高野 隆 惠谷 秀紀

藤沢 篤史 田中 健一

楠 正二 米田正太郎

多田 邦彦 今泉 昌利

額田 忠篤

(同・1内)

阪大の木村により開発された r-CBF functional image を用いて、虚血性脳病変に対する治療法としての STA-MCA 吻合術を行った症例をえらび、術前と術後の CBF を比較検討した。検査に際しては、吻合に用いた STA の圧迫、対側総頸動脈の圧迫負荷テストなどを行った。

一般に術後に r-CBF の増加のみられた症例では明らかな臨床症状の改善がみられた。術後は血流の再配分と ^{133}Xe 分布領域の減少も認められた。一方、明らかな臨床的改善がみられるにもかかわらず r-CBF の増加しない例もあり、術後 r-CBF を測定する時期の問題があると考えられる。

r-CBF functional image は局所的な脳血流量が地図状にあらわされるため一見してわかるという利点があり、術前術後で r-CBF 改善の程度と臨床像を対比させてみるには勝れた方法である。

27. 甲状腺 RI アンギオの経験

藤田 信男

(京都第一赤十字・2放(核))

甲状腺結節の ^{131}I や $^{99\text{m}}\text{Tc}$ による標準シンチグラムは多くの場合画一的な cold nodule を得るのみで診断価値が少なく、その大きさ形などと共に Cyste, solid tumor, vascularity の大小に関する知見を得ることは、診断予後判定、治療経過追求の上に必要である。比の点に關しガンマカメラ下で TcO_4 を用いた甲状腺 RI アンギオの早期像が有用であることは報告されている。

最近のガンマカメラには動体計測、Display に進歩があり日常検査に容易に実施し得るものがある。われわれは LFOV に高分解能コンバージング C. Microdot, MT 収録装置を用い TcO_4 10 mCi 肘静脈投与直後より 2 秒毎撮像による初回循環時の甲状腺像、20分、2 時間後の静止像を得て判定する方法を用いている。

初回循環時甲状腺像出現の要因は甲状腺局所の血管分布、血液プール、Tc の能動的取込機能（甲状腺機能と必ずしも一致しない）、有効 RI 濃度が考えられるが、20分像、2 時間所見を総合すると各要因の分析が可能で、甲状腺結節の診断に極めて有用であり日常検査として行われるべきものと考える。経験例30例中悪性腫瘍2例、嚢胞、亜急性甲状腺炎、Cyste を伴ったバセドウ病各1例、甲状腺未投与中の慢性甲状腺炎2例につき供覧した。

28. 放射性ヨード甲状腺摂取率による出産後甲状腺機能異常症の診断について

網野 信行 宮井 潔

(阪大・中検部)

木村 和文 久住 佳三

大森 英史 中村 幸夫

(同・中放部)

われわれは、最近橋本病が出産後増悪し一過性の甲状腺中毒症や甲状腺機能低下症が発生すること (Ann Intern Med 87, 155, 1978), また寛解し